

五色百人一首 桃札 一覽

西行法師 嘆^{なげ}けとて 月^{つき}やはものを 思^{おも}はする かこち顔^{がほ}なる わが涙^{なみだ}かな
権中納言定家 来^こぬ人^{ひと}を まつほの浦^{うら}の 夕^{ゆふ}なぎに 焼^やくや藻^も塩^{しほ}の 身^みもこがれつつ
前大僧正行尊 もろともに あはれと思^{おも}へ 山^{やま}桜^{ざくら} 花^{はな}より外^{ほか}に 知^しる人^{ひと}もなし
祐子内親王家紀伊
音^{おと}に聞^きく 高^{たか}師^しの浜^{はま}の あだ浪^{なみ}は かけじや袖^{そで}の ぬれもこそすれ
前中納言匡房 高^{たか}砂^{さご}の 尾^お上^のの桜^{さくら} 咲^ききにけり 外^と山^{やま}の霞^{かすみ} 立^たたずもあらなむ
待賢門院堀川 長^{なが}からむ 心^{こころ}も知^しらず 黒^{くろ}髪^{かみ}の 乱^{みだ}れて今^け朝^{あさ}は 物^{もの}をこそ思^{おも}へ
藤原実方朝臣 かくとだに えやはいぶきの さしも草^{くさ} さしも知^しらじな 燃^もゆる思^{おも}ひを
大弐三位 有^{あり}馬^ま山^{やま} 猪^み名^なの笹^{ささ}原^{はら} 風^{かぜ}吹^ふけば いでそよ人^{ひと}を 忘^{わす}れやはする
相模 恨^{うら}み侘^わび 干^ほさぬ袖^{そで}だに あるものを 恋^{こひ}に朽^くちなむ 名^なこそ惜^おしけれ
藤原興風 誰^{たれ}をかも 知^しる人^{ひと}にせむ 高^{たか}砂^{さご}の 松^{まつ}も昔^{むかし}の 友^{とも}ならなくに
平兼盛 しのぶれど 色^{いろ}に出^いでにけり わが恋^{こひ}は 物^{もの}や思^{おも}ふと 人^{ひと}の間^とふまで
源重之 風^{かぜ}をいたみ 岩^い打^うつ波^{なみ}の おのれのみ くだけて物^{もの}を 思^{おも}ふころかな
中納言行平 立^たち別^{わか}れ いなばの山^{やま}の 峰^{みね}に生^おふる まつとし聞^きかば 今^{いま}帰^{かへ}り来^こむ
文屋康秀 吹^ふくからに 秋^{あき}の草^{くさ}木^きの しをるれば むべ山^{やま}風^{かぜ}を 嵐^{あらし}といふらむ
源宗于朝臣 山^{やま}里^{さと}は 冬^{ふゆ}ぞ寂^{さび}しさ まさりける 人^{ひと}目^めも草^{くさ}も かれぬと思^{おも}へば
天智天皇 秋^{あき}の田^たの かりほの庵^{いほ}の とまをあらみ わが衣^{ころも}手^では 露^{つゆ}にぬれつつ
山部赤人 田^た子^ごの浦^{うら}に うち出^みでて見^みれば 白^{しろ}妙^{たへ}の 富^ふ士^じの高^{たか}嶺^ねに 雪^{ゆき}は降^{ふち}りつつ
陽成院 筑^{つく}波^ば嶺^ねの 峰^{みね}より落^おつる 男^{みな}女^な川^{がは} 恋^{こひ}ぞつもりて 淵^{ふち}となりぬる
皇太后宮太夫俊成
世^よの中^{なか}よ 道^{みち}こそなけれ 思^{おも}ひ入^いる 山^{やま}の奥^{おく}にも 鹿^{しか}ぞ鳴^なくなる
藤原清輔朝臣 永^{なが}らへば またこの頃^{ごろ}や しのばれむ 憂^うしと見^みし世^よぞ 今^{いま}は恋^{こひ}しき